

太子山南麓遺跡 第4次調査

—太子町立西中学校校舎改築に伴う遺跡発掘調査—

1999年6月

太子町教育委員会

例言

1. 本書は、太子町立太子西中学校校舎改築に伴い兵庫県掛保郡太子町立岡字山畑 207 番地において実施した埋蔵文化財発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、平成11年3月30日から4月18日にかけて実施したものである。
3. 調査は、太子町教育委員会が主体となり、同社会教育課三村修次、海野浩幸が担当した。
4. 調査にあたっては、有限会社三宝建設、太子町シルバー人材センターの協力を得た。
5. 整理作業にあたっては、井上道子、岩村千穂、改発法子、中村豊子、藤井昭子の協力を得た。
6. 本書で使用した座標は、国土座標第Ⅴ系を基準とした。
7. 基準点測量は、喜多村測量株式会社に委託した。
8. 本書の執筆・編集は、三村修次、海野浩幸が担当した。

本文目次

例言

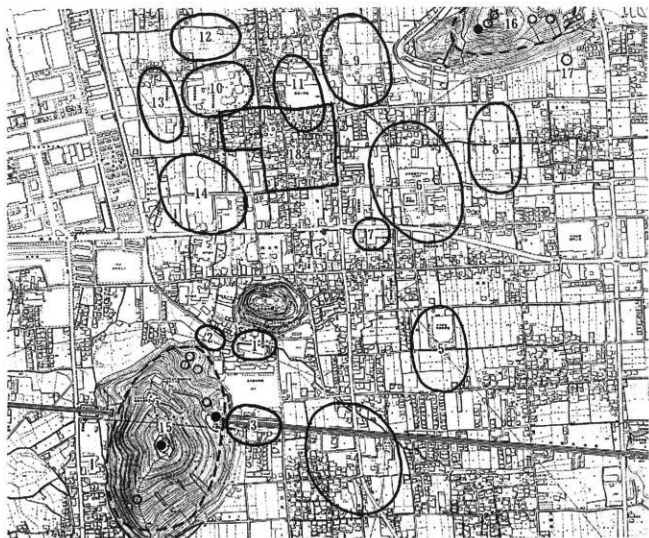
調査に至る経過	1
調査の概要	1
まとめ	3

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図	
第2図 調査位置図	1
第3図 トレンチ設定図	1
第4図 遺構配置図	2
第5図 土層実測図	3

図版目次

図版1 調査地周辺航空写真		
図版2 調査前	調査風景	T-1
図版3 溝1	溝1土層断面	T-1東端部 溝2
図版4 溝2土層断面	T-2	T-3



第1図 周辺遺跡分布図

- | | | |
|------------|-------------|------------|
| 1. 太子山南麓遺跡 | 7. 鶺鴒・石田遺跡 | 13. 斑鳩寺西遺跡 |
| 2. 船塚遺跡 | 8. 東保・高田遺跡 | 14. 斑鳩寺南遺跡 |
| 3. 立岡遺跡 | 9. 五反畑遺跡 | 15. 立岡山古墳群 |
| 4. 立岡東遺跡 | 10. 斑鳩寺遺跡 | 16. 東保山古墳群 |
| 5. 東南遺跡 | 11. 斑鳩小学校遺跡 | 17. キツネ岩遺跡 |
| 6. 鶺鴒遺跡 | 12. 斑鳩寺北遺跡 | 18. 鶺鴒構 |

太子山南麓遺跡 第4次調査

1. 所在地

兵庫県揖保郡太子町立岡字山畑 207 番地

2. 調査主体者

兵庫県揖保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課
三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成11年3月30日～4月18日

5. 調査面積

100.5m²



第2図 調査位置図

(国土地理院 1/25,000 網干)

6. 記録作成

土層断面実測図 (1/20)、遺構平面実測図 (1/80)

写真記録 (カラー 35mm・6×7 版)、国土座標記録

7. 調査に至る経過

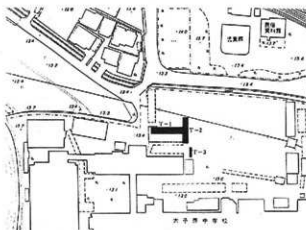
太子町立西中学校校舎は築後38年を経過し老朽化が進んだため、平成11年度事業として改築されることになった。周辺は周知の遺跡である太子山南麓遺跡の範囲に含まれることから、改築予定地内である現校舎北側のテニスコート部分において平成10年3月に確認調査(太子山南麓遺跡第3次調査)を実施し、溝状遺構を確認した。今回確認調査の結果に基づき、校舎改築部分において発掘調査を実施したものである。

8. 調査の概要

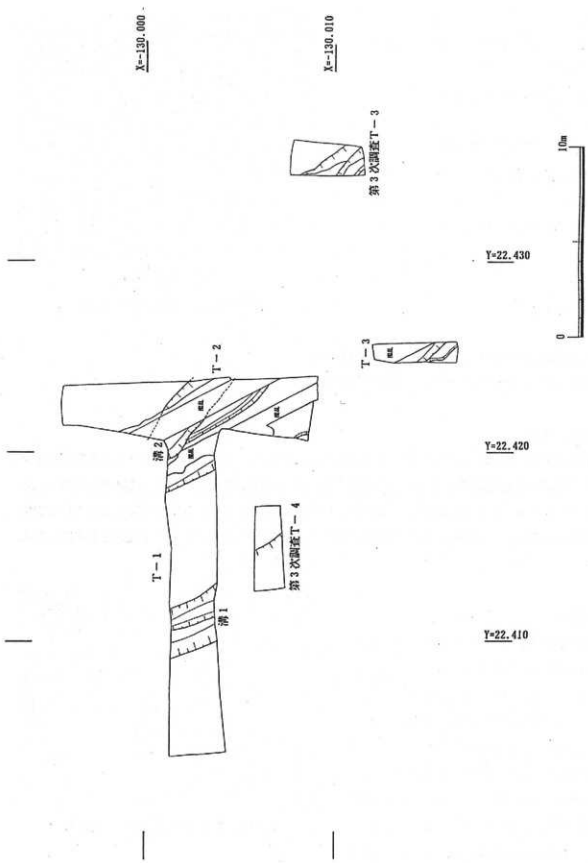
調査は校舎改築予定地内に、幅3mのトレンチ2本、幅1.5mのトレンチ1本を設定して実施し、その結果、T-1～2で溝状遺構2条を検出した。

溝1はT-1中央部で検出され、幅約2.5m、深さ約50cmを測る。埋土は灰褐色粘質土、黄褐色土、暗茶褐色土からなっている。遺物は弥生式土器・須恵器の細片が少量出土したが、実測図化出来るものはなかった。第3次調査のT-4で検出された溝と一連のものである。溝2はT-1東端

部からT-2にかけて検出され、上面を中学校建設に伴い埋め立てられた水路により攪乱を受けているが、幅約2m、深さ約20cmを測る。埋土は暗褐色土、暗黄褐色細砂質土、褐色砂からなっている。第3次調査のT-3で検出された溝に続くものと考えられる。遺物は出土しなかった。



第3図 トレンチ設定図 (1/2,000)



第4図 道構配置図

太子山南麓遺跡 第4次調査

1. 所在地

兵庫県掛保郡太子町立岡字山畑 207 番地

2. 調査主体者

兵庫県掛保郡太子町教育委員会

3. 調査担当者

太子町教育委員会社会教育課

三村修次、海野浩幸

4. 調査期間

平成11年 3月30日～4月18日

5. 調査面積

100.5㎡

6. 記録作成

土層断面実測図 (1/20)、遺構平面実測図 (1/80)

写真記録 (カラー 35mm・6×7版)、国土座標記録

7. 調査に至る経過

太子町立西中学校校舎は築後38年を経過し老朽化が進んだため、平成11年度事業として改築されることになった。周辺は周知の遺跡である太子山南麓遺跡の範囲に含まれることから、改築予定地内である現校舎北側のテニスコート部分において平成10年3月に確認調査(太子山南麓遺跡第3次調査)を実施し、溝状遺構を確認した。今回確認調査の結果に基づき、校舎改築部分において発掘調査を実施したものである。

8. 調査の概要

調査は校舎改築予定地内に、幅3mのトレンチ2本、幅1.5mのトレンチ1本を設定して実施し、その結果、T-1・2で溝状遺構2条を検出した。

溝1 T-1中央部で検出され、幅約2.5m、深さ約50cmを測る。埋土は灰褐色粘質土、黄褐色土、暗茶褐色土からなっている。遺物は弥生式土器・須恵器の細片が少量出土しただけで、実測図化出来るものはなかった。

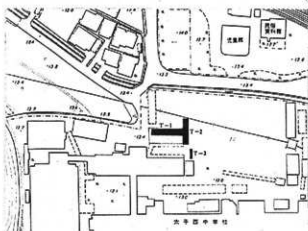
溝2 T-1東端部からT-2にかけて検出さ

れ、上面を中学校建設に伴い埋め立てられた水路により攪乱を受けているが、幅約2m、深さ約20cmを測る。埋土は上層から暗褐色土、暗黄褐色細砂質土、褐色砂となっている。前回の確認調査のT-3で検出された溝に続くものと考えられる。遺物は出土しなかった。

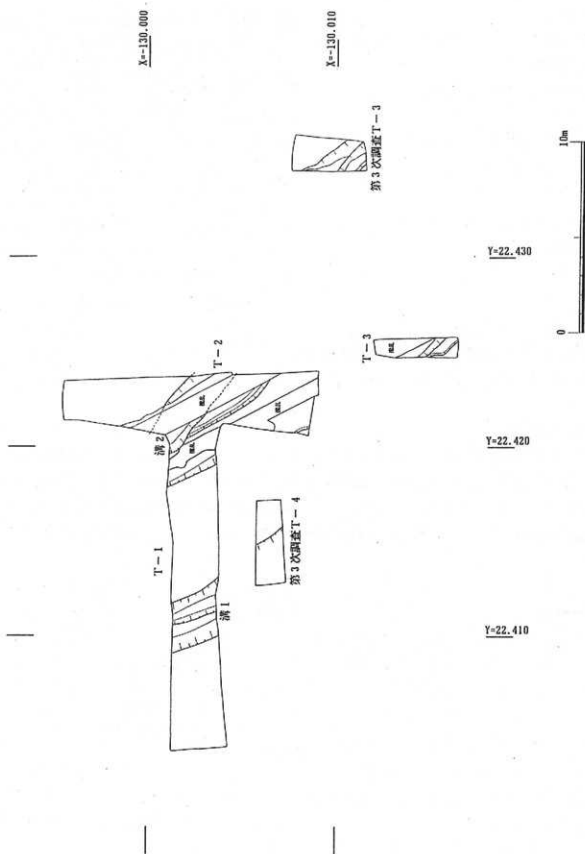


第2図 調査位置図

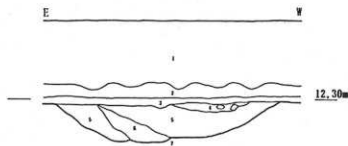
(国土地理院 1/25,000 網干)



第3図 トレンチ設定図 (1/2,000)

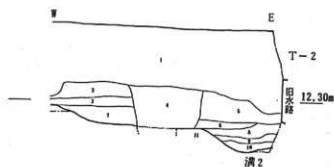


第4図 遺構配置図



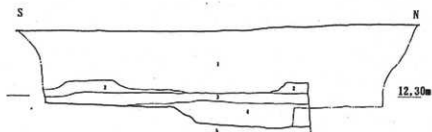
- | | |
|----------|--------------|
| 1 盛土 | 5 暗赤褐色土 |
| 2 旧耕土 | 6 黄褐色土 |
| 3 旧床土 | 7 黄褐色細砂質土・地山 |
| 4 陶灰色粘質土 | |

T-1 溝1



- | | |
|-------------------|-------------------|
| 1 盛土 | 7 淡褐色土 |
| 2 旧耕土 | 8 暗褐色土 |
| 3 旧床土 | 9 暗黄褐色細砂質土 |
| 4 埋込層 | 10 褐色砂質土 (小川礫混じり) |
| 5 青灰色粘質土 (旧水路埋込層) | 11 黄褐色細砂質土・地山 |
| 6 黄褐色粗砂 (旧水路埋込層) | |

T-1 東端部



- | |
|--------------|
| 1 盛土 |
| 2 旧耕土 |
| 3 旧床土 |
| 4 淡褐色土 |
| 5 黄褐色細砂質土・地山 |

T-3



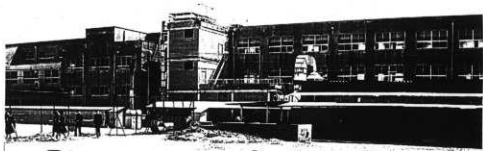
第5図 土層実測図

9. まとめ

今回の調査では、溝2条を検出したに留まった。いずれも出土遺物に乏しく、時期を特定することはできなかった。また埋め立てられた水路を境に、西側では旧水田面が東側に比べ30cm以上も低くなっていることが確認され、調査地の西に所在する船塚遺跡の遺構検出状況等をあわせて考えると、一帯が水田開発に際して大規模な削平が行なわれてきたことがわかった。



調査地周辺航空写真（昭和32年1月撮影）



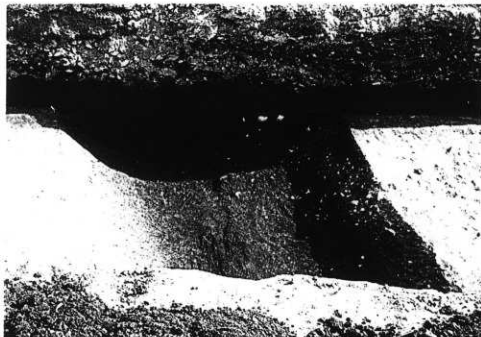
調査前（北から）



調査風景



T-1（西から）



溝1 (北から)

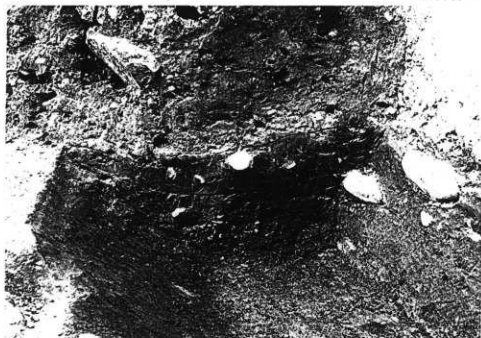


溝1土層断面



T-1 東端部
溝2 (南から)

溝 2 土層断面



T-2 (北から)



T-3 (北から)



奈良古墳等調査報告書

ふりがな	たいしやまなんろくいせき							
書名	太子山南麓遺跡第4次調査							
副書名	太子町立太子西中学校校舎改築に伴う遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	太子町文化財資料							
シリーズ番号	第60集							
編著者名	三村修次 海野浩幸							
編集機関	太子町教育委員会							
所在地	〒671-1561 揖保郡太子町船1369-1 TEL 0792-77-1010							
発行年月日	西暦 1999年6月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ***	東経 ***	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
太子山南麓遺跡	揖保郡太子町立岡 越 野田 字山畑	284645	450015	34度 49分 40秒	134度 34分 41秒	1999.3.30~ 1999.4.18	100.5m ²	校舎改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
太子山南麓遺跡	散布地	弥生・古墳 中世	溝		弥生式土器、須恵器、 備前焼			

